

登録コード	TSX14500	開講年度	2026				
授業科目	空間構造設計学特別実験					担当教員	羽藤 広輔
英文授業名	Laboratory Work in Design Theory of Historical Space and Structure					副担当	
単位数	4	講義期間	不定期	曜日・時限	集中・不定期	対象学生	建築学分野2年生
講義室			授業形態	実験	備考		
信大コンベンション	該当						
(1)授業の達成目標	【授業で得られる「学位授与の方針」要素】				⇔	【授業の達成目標】	
	2 6 TSカリ, 2 5 TSカリ, 2 4 TSカリ, 2 3 TSカリ						
	【専攻】専門知識に基づいて自らの思考や妥当性を論理的に説明できる批判的思考力				⇔	建築意匠の専門知識に基づいて、建築家や建築作品などに対する研究論文、または、建築設計の作品を組み立てることができる。	
(2)授業の概要	・建築設計分野の作品事例や建築意匠分野の研究論文の紹介 ・履修者のそれまでの活動に基づく制作・研究の構想と実践（履修者の関心を前提にしてテーマを決定）						
(3)授業計画	第1回 ガイダンス <制作> 第2－3回 テーマ検討 第4－6回 先行事例の把握 第7－9回 先行事例のレビュー 第10－12回 リサーチ 第13－15回 スタディ 第16－18回 プロジェクト1 第19－21回 プロジェクト2 第22－24回 プロジェクト3 第25－27回 表現の検討（図面・模型・その他） 第28－30回 全体の総括・成果発表 <論文> 第2－3回 テーマ検討 第4－6回 既往論考・関連する文献の把握 第7－9回 既往論考のレビュー 第10－12回 資料リストの作成 第13－15回 資料の収集 第16－18回 資料の読み込み 第19－21回 分析方法の検討 第22－24回 分析 第25－27回 分析結果に基づく結論の検討 第28－30回 全体の総括・成果発表						
(4)成績評価の方法	課題における構想・作業量・完成度などを総合的に評価する。						
(5)成績評価の基準	課題において(i) テーマ選択が適切であり, (ii) そのテーマの背景を説明できており, (iii) そのテーマにどのような提案性や学術的意義があるのかを指摘できており, (iv) そのテーマに対する既往の事例や論考を把握できており, (v) その上で自分の見解を提示できており, かつ, 教員を感心させるレベルにあれば「卓越している」。(i) から (v)の5項目を満たしていれば「かなり上にある」。4項目までできていれば「やや上にある」。3項目までできていれば「合格水準にある」。						
(6)事前事後学習の内容	各回の予習および課題						
(7)履修上の注意	「空間構造設計学」「空間構造設計学演習」の単位を取得していることが望ましい。						
(8)質問,相談への対応	随時受け付ける。メールの場合はkhato@shinshu-u.ac.jp						
(9)その他							
【教科書】	指定しない						
【参考書】	指定しない						